

夏にも多くなるダニ媒介感染症

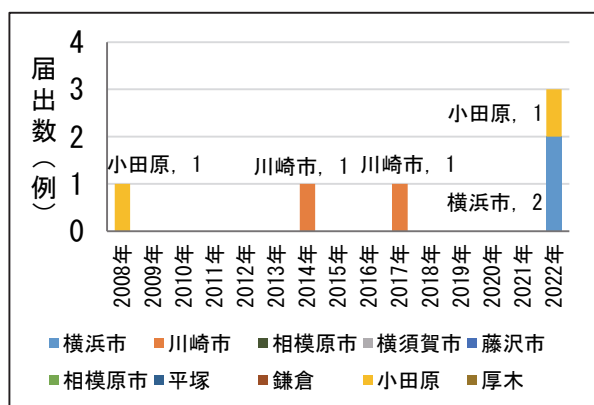
日本紅斑熱

神奈川県は県西山間部を中心に11月と12月につつが虫病の届出が多くあり、2022年10月「山に行くときはつつが虫病に注意!」という、パンフレットを出しました。

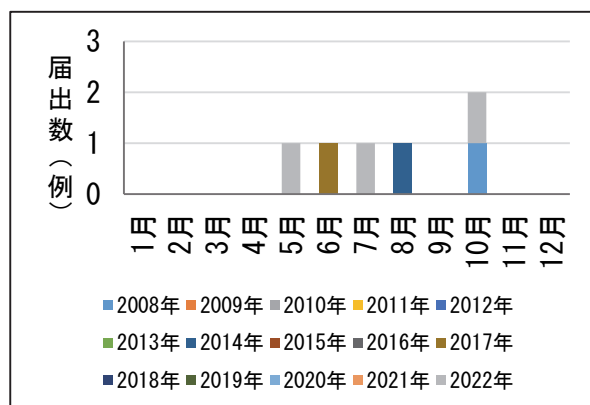
夏にも別の種類のダニに咬まれて罹る感染症があります。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)と日本紅斑熱です。2023年6月現在、SFTSに関してはまだ神奈川県での届出はありませんが、日本紅斑熱は2008年に最初の届出があってから、合計6例の届出がありました。



神奈川県での発生状況



日本紅斑熱の年別保健所別届出数
(神奈川県、2008年～2022年)



日本紅斑熱の月別届出数
(神奈川県、2008年～2022年)

神奈川県では日本紅斑熱(JSF)の届出が川崎市から2例・横浜市から2例・小田原保健福祉事務所管内から2例、合計6例ありました。

65歳以上の高齢者が半数を占めますが、小学生が1例でした。

夏を中心に5月から10月にかけて届出されています。季節に関しては西日本の発生の多い地域と同じです。

2022年は3例と増加しました。



ダニからの検出状況

当所の以前の調査では、県内のダニ79検体のうち、10検体(12.7%)からPCRで、JSFの病原体(リケッチア・ジャポニカ)遺伝子が検出されました。

SFTSとJSFの届出が多い自治体の調査では、ヤマアラシチマダニ291検体を調べたところ35匹(12.0%)からJSFの病原体が検出されたと報告されました。



SFTSとの違い

上記自治体からの報告では、SFTSとJSFでお住まいの環境や職業が異なる傾向がみられたと報告されました。

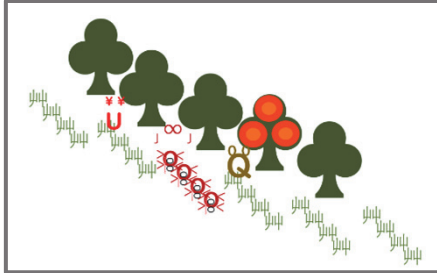


シカやイノシシを住宅近くに近づけないようにしましょう



神奈川県でも果樹園がありますが、耕作放棄されている園も見受けられます。

ダニを運ぶイノシシやシカも県西地域を中心に多く生息しています。シカは2000年代、多い所では1平方kmあたり50頭から100頭近く居たのが、2020年代は5から20頭前後まで減っています。一方、イノシシの捕獲頭数は、平成15年は633頭であったのが、令和に入り年間3,000頭を超えるようになりました。



動物を近づけないためには、動物やダニの隠れ場所になる藪を刈り、放置された果樹を伐採して、野菜や生ごみを放置しない様な管理が必要です。

自治体もフェンスの設置など動物が出てこない施策を講じています。



ダニに咬まれないために

ダニに咬まれないようにするには、皮膚を露出させない（長靴・長ズボン、長袖・手袋。裾や袖口は縛る）ようにしましょう。地面や草むらに座ったり寝転んだりせず、レジャーシートなどで覆いましょう。ダニよけ剤も有効です。

吸血前3～5mmのダニは、吸血後硬貨ほどの大きさになります



帰って来たら、衣服やペットにダニがついていないか良く見て良く払いましょう。粘着クリーナーでくっ付けて取ることもあります。わきの下や太ももの内側といった柔らかい所に黒いカサブタ（痂皮・刺し口）がないか入浴時によく見ましょう。



日本紅斑熱の症状

症状は、高熱です。その他に頭痛や悪寒・倦怠感などがあります。この時点では感冒と見分けが付きません。その後、紅斑が出て来ます。重症例では、肝機能障害の他、血小板が減るDICや血球貪食症候群を併発する場合があります、そのような症例では意識障害も伴うことがあります。

刺し口は気付かない場合や診察で見つからない場合も多いです。

紅斑に痛みや痒みはないので、患者さんから報告されないかもしれません。紅斑の辺縁がはっきりせず、5～10mmと不揃いで、後になると紫斑様に見えます。

潜伏期間は3日から10日程度です。



日本紅斑熱の診断・治療

診断は血清学的診断が主でしたが、痂皮や紅斑、全血からの病原体遺伝子診断もできるようになりました。

治療は、軽症例ではテトラサイクリン系抗菌薬、重症例ではニューキノロン系の抗菌薬を併用することがあります。診断が確定する前にお住まいの周囲の状況や農作業・草刈りなどの行動歴を医師に伝えて頂くと日本紅斑熱の診断の助けになります。風邪と思っても皮膚の所見を見て貰いましょう。

